

さみしい夜の句会報 第86号 (2022. 10. 30-2022. 11. 6)

◆ 参加者 あしまねくん、徳道かつみ、白水ま衣、さー、風池陽一、
sususu、池田吉輝、石川聡、木野清瀬、水の眠り、森内詩紋、式定住
佳、西脇祥貴、海馬、菊池洋勝、雛子、あわい花、まつりぺきん、元
さん、電車侍、休庵、橋明月子、しろとも、天やん、藤井皐、思雨
(スイ)、おかもとかも、望月華もちづきはな、雪上牡丹餅、東こ
ころ、むくみんママ、蜜、正念亭若知古、花野玖、ぼっぼ、のこりか
庵、Ryu_sai、橋月子、チューバ 2022、PERCHES、とよなう、梓川葉
ま(ちやうば)、蔭一郎、crazy lover、西沢葉火、あん、雷(ら
い)、ころばこーる、鴨川ねぎ、岡村知昭、木之下ゆうり、馬勝、
hyuuropa、最中妙、糸瓜曜子、EG、汐田大輝、麻丹 rami、rajin、
石原とつき、miguort、雲千晴也、ちゆんすけ、みんみん、たろりす
む、涼閑、阿笠香奈、kiyoka、夏栞さゆり女、HAMBIKI、金瀬雅雄、
鷺沼くぬぎ、てくてく、日下昊、星野響、輪井ゆう、空瓶、なゆた、
小沢史、高田月光、高良俊礼、yellow、cissa、Dossa、芥川美香、抹茶
金魚、おたま、日月星香、いずみ、かなす、うたたね、宥樹、充子、名
犬、ぼち、takenakahiroyuki、樽崎進弘、mi.ki.suzu、桜井は絵とか描
くんだそーだ、Asura's Hair、宮坂彦吾、うつりにけりな、月波与
生(一〇三名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

酔橘は青い片言は宙ふらりん 石川聡

電線あきの青ちぎる 石川聡

いっせいに夢の中までおりてくる 石川聡

包丁の後ろ姿は滝である 白水ま衣

虚粟みたいな家ですこし泣く 高田月光

十月尽をんなは海のままですか 小沢史

プライドの高いおんなの裁ち缺　ちゆんすけ
みなさんは未来の肉球候補です　おかもとかも
カミソリと形容されるアップルパイ　おかもとかも
サムライも西を向いたら花畑　まつりぺきん
うるこ雲みんなみーんな幸せに　まつりぺきん
二月のリアルアバターとして墓碑　白水ま衣
自由帳でつくったサンドイツチだよ　海馬
菜虫の食欲十四五の性欲　菊池洋勝
ロフテッド軌道で示す遺憾の意　たろりずむ
手塚治虫が直喩であった頃の空　白水ま衣
レシートの裏で小さく芋煮会　しまねこくん
氏子らを林檎の枝にぶら下げる　しまねこくん
小鳥来て先に布団で寝てあたり　しまねこくん
愛人の検索履歴文化の日　馬勝
繰上げスタートの号す刈田かな　菊池洋勝
止めやうもないほど柿が熟れやがる　しまねこくん
やべえこんなブルースこんな靴の裏　海馬
うら枯れや即身仏の作り方　あ
ゆどうふなあなたにしては猿ですね　岡村知昭
あれは雑念だったと今日の後頭部　雷（らい）、
満月は生殖器から欠けてゆく　橘月子
果汁グミ、ぶどうぶると帰国子女　Ryu san
さくらんぼ指の先まで雨の音　あわい花
三月の手帳のなかで眠る象　あわい花
さよなら友達がほしかったわたし　あわい花
前髪を切らぬ場合の冬支度　木野清瀬
青空がマグリットから降ってくる　白水ま衣
押し入れに潜める未知の拡張子　鴨川ねぎ
二枚舌動くひとつは火の匂い　ちゆんすけ
わたくしのマスターキーはどこですか　ちゆんすけ
見つめると流れて落ちてしまう星　涼雨

さよならのらのカーブから落ちてみて 高田月光
句読点あらば世界を貝にせよ 高良俊礼
天井に高い高いの跡がある たろりずむ
早送られ公転する中島みゆき 西脇祥貴
黄身の話をしない中島みゆき 西脇祥貴
影ならばもう慣れてしまった踏絵 雪上牡丹餅
弥勒さんを待つ自転車は盗まれた 石原とつき
病室の窓か羊かヤナイハラ 藤井臯
白いシーツの／ 繭 の唸り／チーズ 藤井臯

幼な子のきれいに割りし胡桃かな 風池陽一
行く秋やゲート入らぬ競走馬 syusyu

ザクロ割れ赤水晶の輝きし 流天

秋遍路結願(けちがん)の地で見た景色 水の眠り
独り路流転の空はさみしかり 式定住佳

わかってる「感謝」と「愛」は違うって 雛子

乳飲み子が時給に換算した円舞曲(ワルツ) しろとも

ロシアンルーレット・銃声冬来る 天やん

もう私の香りじゃない EHERITY 思雨

陽傾き 捨てられし野の 吾亦紅 電車侍

秋の月あなたは夜を纏う人 東ころ

たましいの くうきが ぬけてゆく よふけ 若知古

鶺鴒やただの一度も逢はぬ人 花野玖

階段でアイスマナカをかじる自由 ぽっぼ

愛猫に慰められむ秋の朝 鶴子

さみしい夜推しじゃないけどさみしい世 ともなう

シフトでは姓が変わっただけのこと まつともとい

悪なのか好きも嫌いも自分でね crazy lover

今朝も汽笛に知らぬ夢を見送る 内山晶生

草臥れた君のシャツ着る秋曇 とるぼとる

月見ゆる窓にて小さく養生す hyuutoppa

一日のきみが一生分のきみ 糸瓜曜日
冬隣伸び縮みする砂時計 汐田大輝
もやもやもカバンに詰め込み旅にでる 麻丹 mani.
月の宮思いい出見せて鬼の眼 na.jimi.
茜さす君の頬秋惜しみをり murgort
枯蟪螂大極殿も住み飽きて 雲上晴也
調律が必要です。ピアノも私も 思雨(スイ)
舊軍の索引付の寫真束 のこりか庵
抵抗にとどめを刺した夜の雨 阿笠香奈
ペリカンの口で育った婚約者 西沢葉火
父の忌と猫の忌十一月嫌い 夏埜 さゆり女
とても好き養老孟司すごい好き HAKIBIKI
玄関のドアに大きな黒マスク 金瀬達雄
惑星の名だたる隙間秋の声 鷺沼くぬぎ
銀杏散る鉄塔群は蜂起する 星野響
さわりたいあの水色にすすき伸び 輪井ゆう
優しさのぬくもりを知るぬいぐるみ 空瓶
遠くまで 来てしまったねわたしたち なゆた
めざめすぐ赤子のごとく叫びたい 麻丹 mani.
ピンクは情彼の背は景へムライン cissa possa 芥川美香
今からヒートテックじゃ外行けない 日月星香
つつしんで迂回冥界のしつぽ いずみ
ハロウィンと一人ダンスする案山子 かなず
いつだって蛇はつま先から囓う 月波与生

◆ 7・7、5・7・5以外の短詩

ぼくはもういきていけない can. + のトが掠れる変声期の中
で 望月華

古書と古書と迷うわたくしの心ラムネソーダの君に惹かれ

て 望月華

ラッピングされてく町がかわいくてイルミネーション点くの待ってる さー

学校新聞の片隅でまだ初恋の人は息をしている しりとも非現実から逃避して四股を踏むまだ序ノ口の四股名は「枯葉」 蔭一郎

せんせいはあいちゃんが好き かわいくてうたがじょうずでかねもちだから 鈴音

もう無理にはしゃいでみせたりしなくていい 葉を挟んで少し眠ろう 森内詩紋

笑われて目配せされて否定され風船浮かぶ悔しさいれて 橋明月子

山盛りの手向けの花や供養塔つとに参りし人の多かりのこりか庵

いい人であろうとしてたバカだった結局利用されていただけ PERCHES

わたしだけのあなたでいて 目を閉じて息のしかたを忘れただけの あんこ

旬野菜話題の味に定番も貴方の横で分かち合えたら 木之下 ゆうり

「もういいよ」摩天楼から見る夕陽 ここで夢見た全てを捨てる 最中妙

何の夢を見るというのか無影灯に浮かび上がる手術台のようなベッドで瞼の裏の眼球左右に動く EG

萎びても群れずにいれば蒸れなくて孤高のみかん中は腐らず みんみん

駐車場に着いたらゼパム僕と社会のフィルター Kiyoka

紅葉する葡萄の葉風除室にて揺れまたねと落葉 日下 昊
幸せはとくにひつようないけれど地球へだけは流刑はいやだ 蔭一郎

◆ 詩

もどかしく
星降る夜が
街に消え
悲しい時間
夜明けを見てる (元さん)

貰えるもんはもらって
人には与えぬ。
世の中 多すぎるよね。
エサも与えんと
魚釣れんやろ？
それと一緒やて。
俺はえらいんや
私はすごいんや
その鼻 いつか折れるで。
人からもらった 温かい気持ち
粗末にせんといてな。(休庵)

幼くて愛を知らず
あなたも私も
我儘な独り芝居 (むくみんママ)

冬毛になったきみの背を撫でる間もなく土曜日の花火と
あの子が奪ってくきみの愛しのあの子の手 雨が降ればい
いのに (蜜)

君がもうタクシー乗れたか気になるし

なんとなく元気ないのも知っていたしで
やるせない霜月の夜ひとり寝まくら (梓川葉)

妄想跳ぶ

ヒヨドリより高く

ヒヨドリより騒がしく

妄想跳ぶ

それは至福の時間 (てくてく)

月夜、明かり眩しい。

寝る前には次に来る明日を憂い、軽く絶望。

弱音さえ吐けぬ圧迫感に、肋骨一本折っている。

祈っている。

絶望しなくて良い明日を。(Yellow)

せつないよるわ

なにしようかな

慌ただし

すぎたとたんに

滑り込む

俄なふあんと

お月さま (おたま)

◆作品評から

集めれば揃うのかなあ街中のかたつぼだけの手袋。さ

1

く街中の「かたつぼ」が集まってみればどうなるのだろう。みんなしあわせになれるのだろうか。今夜も「かたつぼ」たちはため息をつく。(月波与生)

電線あきの青ちぎる 石川聡

♪ブルー一択のモンドリアン (うたたね 宥樹)

階段でアイスモナカをかじる自由 ぽっぼ

♪そんな青春があつたな (充子)

氏子らを林檎の枝にぶら下げる しまねこくん

♪うわああああ。おろしてえええ。(名犬 ぼち)

あいむふあいんせんきゅー射殺されゆく時も元氣にあいむ
ふあいんせ 望月華

♪断末魔で思い出すのは北斗の拳の雑魚キャラで探せば
「断末魔一覽表」もあつたような気がする。彼らも元氣で
前向きだったのだ。(月波与生)

愛猫に慰められむ秋の朝 鶴子

♪愛猫に 慰められむ 秋の朝 「お互い様よ 気にな

むなかれ (takenakahiroyuki)

早送られ公転する中島みゆき 西脇祥貴

♪昨今の、動画を早送りしたがる傾向が音楽に、唄にま
で及んでしまったら：などと不安があつても、唄は、音楽は
いまここにある。誰かを待っている。地球の上に朝が来る、
その裏側は夜だろう、とのかつての流行り唄のように。(岡
村知昭)

影ならばもう慣れてしまった踏絵 雪上牡丹餅

♪幼い頃、影踏みをして遊んだ。父や母や、友達と。も
しかしたらあの影は踏絵だったのかもしれない。そうやっ
て私は、信じる人達を裏切ること慣れてしまった。(西沢
葉火)

弥勒さんを待つ自転車は盗まれた 石原とつき

　　弥勒さんを待つているうちに自転車盗まれたのか、弥勒さんが乗る日を待つていた自転車が盗まれたのか。わかっているのは「自転車が盗まれた」。自転車が奪われた空間に、弥勒菩薩の来る気配は、いまのところありません。現場からは以上です。(岡村知昭)

　　「億々千万年も待てないし、世界中を救ってくれなくてもいいから、とりあえずすぐに私のことをなんとかしてほしい。だから親しげに「弥勒さん」って呼んでみた。輪廻の代わりに漕いでいた自転車を盗まれたら、どうやって帰ればいいのか、弥勒さん！(西沢葉火)

合鍵になる団栗とそれ以外 しまねこくん

　　「合鍵になる団栗」も謎だが「それ以外」で怖さが増幅される。きつとぼくもあなたも誰かの合鍵なのです。(月波与生)

黄身の話をしないう中島みゆき 西脇祥貴

　　「黄味は君ですね。あなたについて語ればわたしが露になるから。(檜崎進弘)

うろこ雲みんなみーんな幸せに まつりぺきん

　　「爽やかな空に賑やかに雲がぼこぼこ出ておると、他者への慈しみが心の底からぼこぼこ出てくるのかもしれない。(森内詩紋)

幸せはとくにひとつようないけれど地球へだけは流刑はいやだ 蔭一郎

　　「確かに今の地球への流刑はイヤだな。どれほどの罪ならば此処に落とされるのだろうか……(森内詩紋)

小鳥来て先に布団で寝てあたり　しまねこくん

〜猫でも犬でもなく小鳥というところが好きです。つぶさなないようにしなくては。(花野玖)

ありったけの笹舟が子宮にあるのよ　藤井草

〜「ありったけ」は無限ではない。しかし終わることのない祈りのようでもある。その笹舟のひとつに乗ってぼく達はやって来たのだった。(月波与生)

銀杏散る街に Chloé の香を探す　IZU

〜「Chloé」が効果的。「銀杏散る街」は散文的なのだけど「Chloé」がクッと世界を引き締め「香」に質感を感じさせた。(月波与生)

カミソリと形容されるアップルパイ　おかもとかも

〜すごいアップルパイなのは確かだと思うのですが、味の形容ではないカンジ。仕事なのかスポーツなのか、相当てできるアップルパイ。ん〜、甘くはなさそうですね。(まつりぺきん)

ハイター香る鬼女になろうと思う　西脇祥貴

〜(ハイター香る／鬼女になろうと思う)と読むときの切れがかっこいい。この切れは〈煮えたぎる鍋　方法は二つある　倉本朝世〉を想起させた。真摯に字ばれていると思う。(月波与生)

反社でも空気清浄機は使う　雪上牡丹餅

〜そりやそりだろーと思うが不思議に面白い。「空気清浄機」という漢字だらけの固い言葉を上手く使われた。反社の方も禁煙派が増えているのだろうか。(月波与生)

わたくしのマスターキーはどこですか　ちゆんすけ

～わあ…わあ…きゆん (miki-suzu)

十月尽をんなは海のままですか　小沢史

～この俳句を踏まえつつ絵を見たら、『魅せられて』を歌うジュディ・オングが脳内を横切るのだが、果たして、それでいいのだろうか。(桜井は絵とか描く人だそーだ)

いつせいに夢の中までおりてくる　石川聡

～simultaneously

descending

into a dream (Asura's Haiku)

天井に高い高いの跡がある　たろりずむ

～血天井 (宮坂変哲)

病室の窓か羊かヤナイハラ　藤井皐

～全く詳しくはないのですが、ジャコメツテイの作品でしょうか、あるいは矢内原伊作そのものでしょうか。

病室の窓の側で描かれた肖像は立体となったものの、遠目にはアルプスの山々で草を食む羊に見えるのかも知れません。人はものを見たいように見る…それは悪いことばかりではないように思います。(まつりぺきん)

鵲やただの一度も逢はぬ人　花野玖

～いい御句と思います♡ (とるぼとる)

虚栗みたいな家ですこし泣く　高田月光

～みなしぐりと読むのですね。勉強になりました。(うつりにけりな)